



「クラブ戦略委員会に関するアンケート」回答要約

戦略計画委員会
幹事

村橋 義晃

(大阪中之島RC)

クラブ戦略計画委員会について、2回目のアンケート調査を2015年10月に行い、地区内全81クラブから頂いた回答の要約をご報告させていただきます。

1. クラブ戦略計画委員会の発足状況について。

- ・ 81クラブ中、52クラブ(64%)が、既に発足済である。11クラブ(14%)が概ね2016年中に発足を予定している。
- ・ 5クラブが発足を継続して検討中。
- ・ 13クラブが発足しないとの回答であり、発足しない理由として4クラブが人数不足、9クラブが発足の必要性がないとしている。
- ・ 以上、約8割・63クラブが発足済、又は発足する結果となったが、依然13クラブが発足しないとしている。

2. 前回、発足しないと回答されたクラブについて。

- ・ 1クラブが、発足する事に変更した。
- ・ 発足しないクラブの理由として、4クラブが少人数クラブの為、9クラブが発足の必要性が無いとの回答であった。
- ・ 記載された回答理由から、理事会とクラブ戦略委員会との役割、権限等、有する機能が異なることの理解を深める必要があると思われる。
- ・ 「戦略」という言葉への抵抗感が有る。同じ問題意識がありながら理事会や委員会等、既存の組織体の対応で良いとの判断が見受けられる。

3. 前回のアンケート(2015年5月)以降、クラブ戦略計画委員会について理解を深める為にどのような事が行われたか、

- ・ 48クラブが、例会等において、25クラブが、理事会、フォーラム等において必要性を説明した。また

10クラブが、配布資料や週報に掲載して周知した。

- ・ 9クラブが、何もしていないとの回答であった。
- ・ 何もしていないクラブの中にも必要性は感じているが、クラブ内の賛同を得られず、発足はしないとの結論となっている。

4. 発足済のクラブの戦略計画委員会の構成メンバー
 パスト会長・会長・次年度会長・次々年度会長・幹事・次年度幹事等、構成が多く、複数年度に向けたクラブ方針や目標に対応出来る体制になっている。

5. クラブが推進する具体的活動内容について

- ①クラブの中長期的な目標・方針の立案と実践方法の検討：43クラブ
- ②会員増強・維持、会員研修方法、高齢化対策：44クラブ
- ③社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕活動の今後の有り方：28クラブ
- ④クラブの財政問題・クラブの運営方法の検討：22クラブ
- ⑤クラブ活動のクラブ内、及び、対外的な広報の進め方：8クラブ
- ⑥その他(例会出席率向上の方策、他クラブとの共同奉仕事業や合同例会開催)：26クラブ
- ・ 経常的な課題である会員減少、高齢化、会員研修、財政問題、奉仕の有り方等、単年度では解決が困難な課題を複数年度に亘り、取組んでゆく活動が大勢を占めている。これらの課題は、承知されいながら年度替わりにより方針が継続されず、継続的な活動目標が不明瞭にならない様に取組むべき活動内容となっている。



6. クラブ戦略計画委員会についての意見要約

- ・クラブ戦略計画委員会は、複数年度に亘る中長期（3年～5年）のクラブ運営の方向性を継続的に考える諮問機関的な委員会であり、クラブの最高決定機関である理事会との相違点について理解を得たい。
- ・回答者である多くの会長は、単年度故の継続性や方針の変更等、クラブの中長期計画に対する有効性を認め、今後のクラブ戦略計画委員会の活動に期待している。
- ・第一段階のクラブ戦略計画委員会発足については、概ね、理解を得て次年度中には、殆どのクラブが発足を完了すると推察します。全クラブの発足を目指し、継続的なガバナーからの強いメッセージをお願い致します。
- ・第二段階は、発足後のクラブ戦略計画委員会の意

見を基に理事会が方針を決定し、クラブ自体が具体的な目標に向けて活動を推進してゆく必要があります。

以上、全81クラブからの回答を得て要約致しました。前回5月の回答と比較して、発足しないクラブ数が増加したとも見受けられますが、会長の交代によるニュアンスの変化もあり、実態把握を優先致しました。

地区戦略計画委員会が発足してから一年足らずの時点において、約8割の発足が見込まれ、第一段階は、順調に推移してきたと思われま

す。第二段階は、各クラブが具体的な計画を推進し、クラブ戦略計画委員会が形骸化しない様、ガバナー方針の基に地区戦略計画委員会の活動が重要であると思われま